



●発行元●

滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課
 住 所：草津市草津三丁目14-75
 TEL：077-567-5421～5423
 FAX：077-564-2510
 Email：ga35@pref.shiga.lg.jp

この印刷物は古紙リサイクルを配合しています

大津・南部の農業

暑い夏に儲ける！ ハウスでの花き栽培のすすめ

近年、施設園芸では夏の異常な高温の影響で発芽や生育が不良となり、夏場に安定した収益確保が難しくなっています。特に軟弱野菜経営で収益性が下がっています。

そこで当課では、夏の間既存のハウスを活用し、高温に比較的強く、需要が見込める花き品目を導入して収益性を向上させることを提案しています。花き品目の中でもアスターは次のような利点があります。

- 気象の影響を受けにくく、需要の多い時期に合わせて収穫できる。
- 購入苗ではなく種子から栽培できるため、導入にかかる費用が比較的少ない。

一方で、アスターは連作障害が起きやすく、全国的に安定した産地が少ない品目です。しかし、大津・南部地域に多い複数のハウスを持つ軟弱野菜の経営体であれば、連作を避けるための輪作体系を組むことで、持続的な生産が可能となります。

今夏の異常高温下でのコマツナ栽培と比較すると、210㎡のハウス1棟あたりで、約32万円の売上増加と25万円の増益する結果となりました（下表参照）。

アスターの導入をご検討される方は、農産普及課までお気軽にご相談ください。



ビニールハウスを利用したアスターの栽培



あずみスカーレット

表) アスターとコマツナの経営収支の比較 (210㎡あたり)

	アスター	コマツナ 異常高温下・2作
粗 収 益	520,000 (円)	189,500 (円)
経 費	167,180 (円)	103,800 (円)
粗 利 益	352,820 (円)	85,700 (円)
作業時間	73.3 (時間)	93.8 (時間)

アスターの作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	7～8月咲	播種	定植		収穫	
	8～9月咲		播種	定植		収穫
コマツナ 作付期間						

大津・南部農業農村振興事務所では、管内の農業・農村振興情報をFacebook、Instagramで発信しています。今後も農業用水工事や産地、栽培技術、イベントなどの情報を発信しますので、ぜひご覧ください。



Facebook



Instagram



管内イテジク産地の紹介



今浜いちじく生産組合

守山市の今浜いちじく生産組合は平成9年に5名の生産者が「ドーフィン」を栽培したことがきっかけで組織されました。環境こだわり農産物認証制度にいち早く取り組まれ、毎年堆肥を施用するなど、こだわった土づくりをされています。一時は組合員の高齢化などにより栽培面積が減少しましたが、令和3年から5名の新規生産者が組合に加入し、現在は7名で約115aの面積に拡大しています。新規生産者が増え、栽培技術研修会などで既存生産者からの技術継承が行われています。令和4年には商品名を「もりやま湖畔のいちじく」と変更し、ブランド力を高めるとともに、ふるさと納税の返礼品に登録するなど販路拡大も行われています。



栽培技術研修会

栗東いちじく生産組合

栗東いちじく生産組合は平成5年に「ドーフィン」の栽培を開始され、現在は13名の組合員が約100aのほ場で生産しています。令和7年6月には「栗東いちじく」として地域団体商標に登録されました。全組合員がビニールハウスによる雨よけ栽培を行い、環境こだわり農産物認証制度に取り組むなど、品質にもこだわって栽培しています。同組合の強みは、その日に収穫した果実を出荷する「朝採り収穫」と、ハウス栽培による7月下旬から10月頃までの長期収穫で、市場や直売所、洋菓子店など、幅広い販路を確保しています。



収穫作業

直売所では、栗東いちじくを手作りで加工した「栗東いちじくジャム」が販売されており、地域の誇るブランドとして今後さらに注目が高まることが期待されています。

夏季の高温に備えましょう!(稲づくり)

令和7年の夏の高温により、水稻の生育障害や品質の低下が発生しました。近年の高温傾向はこれからも続くと予想されるため、対策を紹介します。

✓ 土づくり

高温の影響で消耗しているほ場の地力を維持・向上させるため、農閑期に土づくり資材や堆肥を積極的に施用しましょう。なお、土づくりはすぐに効果が出るものではないため、長期的な視点での継続が重要です。

✓ 生育後半の肥効維持

高温の影響で水稻の生育後半は肥効が持続せず、栄養ちょう落による白未熟粒の増加で品質が低下しがちです。葉色をこまめに観察し、一発肥料体系では穂肥の施用を、分施体系では穂肥の増量を検討しましょう。



詳しくはこちら

(近江米振興協会HP)

経営規模拡大を見据えた子実用とうもろこし栽培

「子実用とうもろこし」とは、完熟した子実だけを収穫し、家畜の飼料として利用されるとうもろこしです。管内では、令和4年より、大津市において地域内の耕畜連携を目的として栽培が始まりました。この作物は、大規模土地利用型経営体の場合、大きな機械投資を必要とせず、播種には大豆用の播種機（耕うん同時畝立て播種機や高速畝立て播種機）、収穫には汎用コンバインの刈り取り部にコーンヘッドまたはリールヘッドを取り付けることで対応可能です。また、種子の購入、品質検査、収穫物の出荷は、生産者で構成される「滋賀県子実コーン組合」で一括して行われます。さらに、「子実用とうもろこし」は水稻、麦、大豆に比べて省力的に栽培できるため、経営規模の拡大を目指す担い手にとって有望な作物と考えられます。

令和7年からは、規模拡大や作業の省力化を目的として、野洲市の土地利用型経営体も栽培を始めており、初年度から十分な収量を確保されました。令和8年はさらなる収量・品質の確保に向けて取り組まれるとともに、今後の経営規模拡大を見据え、栽培面積を拡大される予定です。



高速畝立て播種機



専用コーンヘッド

農業濁水の流出を防ぎましょう



農業濁水の流出を防ぐために以下の管理ポイントをおさえ、琵琶湖の環境を守りましょう!



① 丁寧に耕起作業を行い、ほ場を均平にしましょう。



② 畔の補修や止水板を適切に設置し、漏水防止に努めましょう。



③ 計画的に入水し、土が7～8割見える状態で代かきを行いましょう。

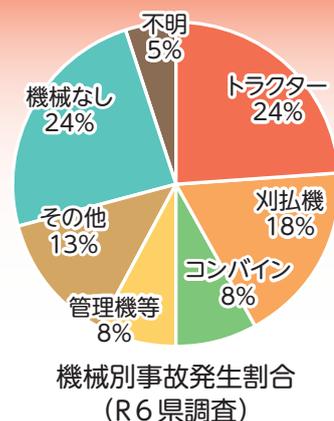


④ 田植前に落水せず、代かき後は速やかに移植・播種しましょう。

農作業事故に注意!!

令和6年度に県内で発生した農作業事故のうち、トラクターと刈払機による事故の割合が大きく、全体の約4割を占めています。ヘルメットやシートベルト、フェイスガードや安全靴などの装備を必ず着用し、周囲の安全も確認し、事故を回避しましょう。

また、熱中症による死亡者が全国的に増えています。高温時の作業を避ける、のどが渇く前にこまめな水分補給を行う、帽子や空調服等を着用するなど予防に取り組みましょう。



新規就農者の紹介

宇田裕紀さん

宇田さんは、園芸専門学校での研修後、茨城県や県内の生産者のもとで働きながら技術習得を進めてこられました。令和6年12月に草津市内の空き温室を購入し、令和7年春から「うっちゃんファーム」として栽培に取り組まれています。春はメロンやオクラ、秋はキュウリやレタスを有機質肥料で栽培し、近隣の直売所等で販売されています。将来は、モモ栽培にもチャレンジしたいと考えておられ、「草津の野菜といえは、うっちゃんファーム」と言われるよう頑張っていきたいと強い意欲を持たれています。



北川昌之さん

北川さんは、民間企業を退職後、県内2戸の果樹生産者のもとで2年間研修を受け、令和7年4月から守山市服部町で、ブドウ20a・ナシ26a・小ギク10aの農業経営を開始されています。ブドウでは根域制限栽培、ナシでは低樹高栽培を導入し、早くから安定した収量が得られる園地づくりに取り組んでおられます。小ギクは、お盆やお彼岸の需要時期に合わせて、市内の直売所を中心に出荷されました。今後も地域の果樹・花き生産を支える存在として活躍が期待されます。



未来の担い手確保に向けた学校連携の取組

県では、担い手の確保・育成に向け、農業高校生を対象に就農意欲を高める取組を進めています。当課は湖南農業高校と連携し、12月9日に連携講座、17日に青年農業者との交流会を実施しました。連携講座では、守山びわっこ農園と農業大学校を訪問し、先進的な栽培技術や経営を学ぶとともに、農大生から学生生活や将来の就農について話を聞きました。交流会では、南びわこ青年農業者連合会の協力を得て、会員のほ場見学や意見交換を行い、地域農業をより身近に感じてもらう機会となりました。参加した生徒からは「進路を考える参考になった」、「農業を仕事にするイメージが具体的になった」などの感想が寄せられ、農業を進学先や職業選択の一つとして考えるきっかけになりました。



農業大学校の見学